

## 第2章 前計画の進捗評価と課題

### 2-1 アンケート調査結果

#### 1. アンケート調査の実施概要

「第三次健康かしま21」の策定にあたり、「第二次健康かしま21」の進捗状況についての評価を行うとともに、計画策定に向けた基礎資料とするため、日常生活や健康に対する意識、食育などに関するアンケート調査を実施しました。

なお、アンケート調査は令和7年1月27日から令和7年2月21日まで行い、調査の対象及び実施方法、回収率、設問内容などについては、以下のとおりです。

図表 17－アンケート調査の対象及び実施結果

アンケート調査の対象	実施方法	配布数	回収数	回収率
4歳児及び保護者	園で配布・回収	258名	167名	64.7%
小学2年生	学校で配布・WEB回答	270名	129名	47.8%
小学5年生		318名	243名	76.4%
中学2年生		279名	202名	72.4%
高校生相当（17歳）	郵送配布、郵便回収・WEB回答併用	300名	103名	34.3%
成人		2,000名	622名	31.1%

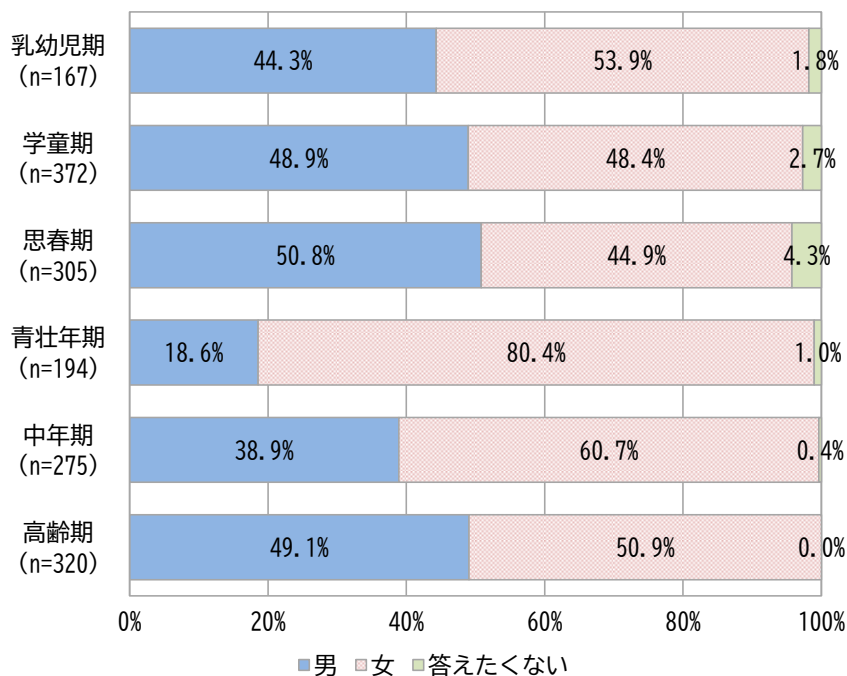
図表 18－各アンケート調査の設問内容

アンケート調査の対象	設問内容			
4歳児及び保護者	<input type="checkbox"/> 基本属性 <input type="checkbox"/> 子育て	<input type="checkbox"/> 子どもの食習慣 <input type="checkbox"/> 保護者の食習慣	<input type="checkbox"/> 子どもの日常生活 <input type="checkbox"/> 保護者の健康状態	
小学2年生	<input type="checkbox"/> 基本属性 <input type="checkbox"/> 食習慣 <input type="checkbox"/> 口腔ケア <input type="checkbox"/> 日常生活			
小学5年生				
中学2年生				
高校生相当（17歳）				
成人	<input type="checkbox"/> 基本属性 <input type="checkbox"/> 健康に対する意識 <input type="checkbox"/> こころの健康	<input type="checkbox"/> 食習慣 <input type="checkbox"/> 運動習慣	<input type="checkbox"/> 日常生活 <input type="checkbox"/> 健康状態	

## 2. アンケート調査結果

### (1) 回答者の属性

回答者の属性は、学童期、思春期を除き「女性」が多くなっており、青壮年期で特に多くなっています。



### (2) 食習慣について

#### ■食習慣について

○青壮年期では毎日朝食を食べるという割合が最も低く、主食・主菜・副菜がそろっている食事についても、意識しているという割合が低いなど、他の世代と比べて食習慣の乱れが懸念されます。

#### ■子どもの食習慣（孤食）について

○朝食については、思春期になると一人で食べる割合が多くなる傾向があります。また、夕食については、乳幼児期、学童期、思春期とも家族全員や大人の誰かと食べるという回答が8割以上となっていますが、思春期になると一人で食べるという割合がやや高く、食事を楽しんでいるについても、思春期になると「どちらともいえない」が25.9%と増加しています。

#### ■料理や料理の手伝いについて

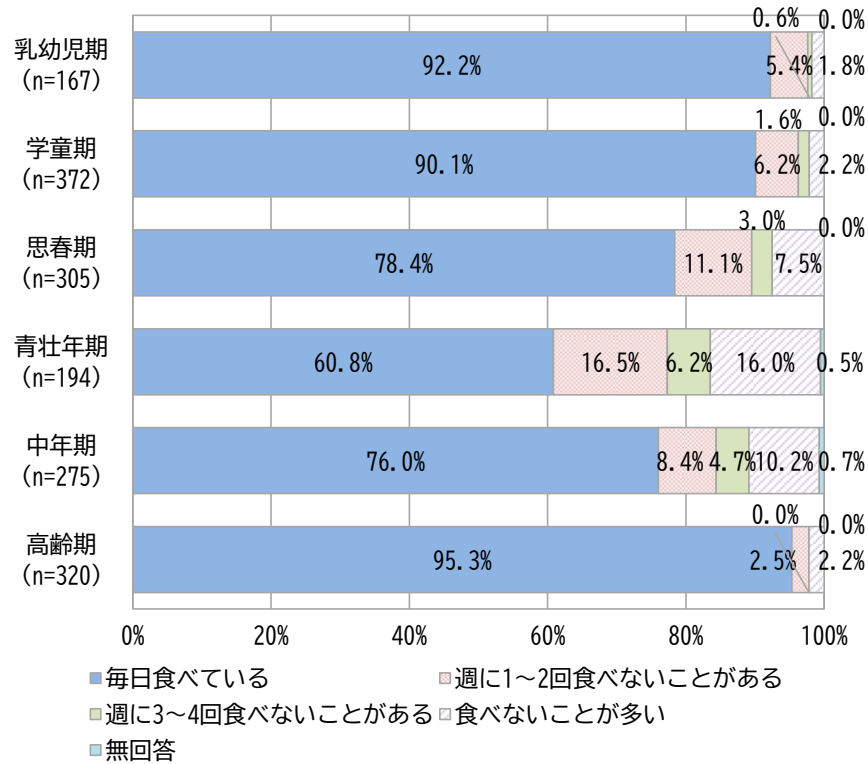
○乳幼児期、学童期、思春期とも「よくある」、「時々ある」の合計が概ね8割となっています。

#### ■野菜の摂取について

○野菜の摂取については、乳幼児期以外は、「積極的に食べている」と「できるだけ食べるようにしている」の合計が9割を超えています。一方、野菜づくりや収穫の機会の有無については、思春期で最も低くなっていますが、青壮年期、中年期、高齢期に移行するに伴い、「ある」という回答が増加し、家庭菜園などをはじめとして野菜づくりに関心を持つ傾向が窺えます。

## ■朝食を食べていますか。

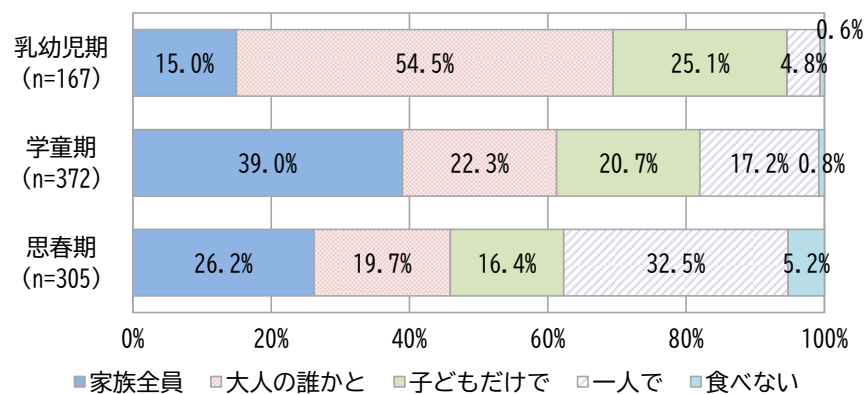
朝食については、「毎日食べている」が各世代とも多くなっていますが、青壮年期は他の世代に比べ低くなっています。



## ■朝食は誰と一緒に食べることが多いですか。

※乳幼児期・学童期・思春期のみ。

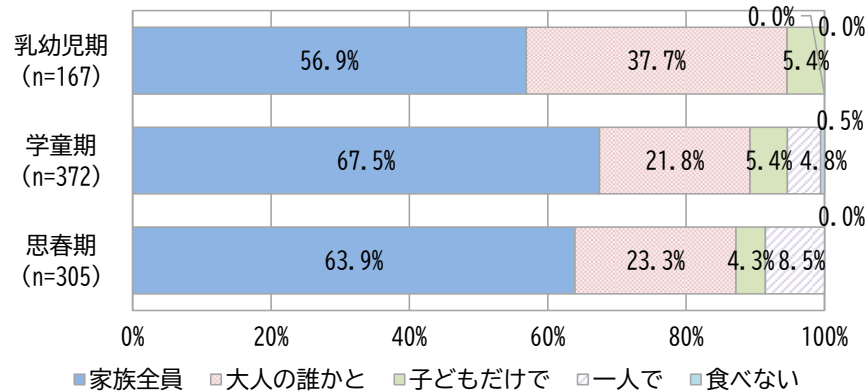
朝食と一緒に食べる人については、乳幼児期は「大人の誰かと」54.5%，学童期は「家族全員」39.0%，思春期は「一人で」32.5%が多くなっています。



## ■夕食は誰と一緒に食べることが多いですか。

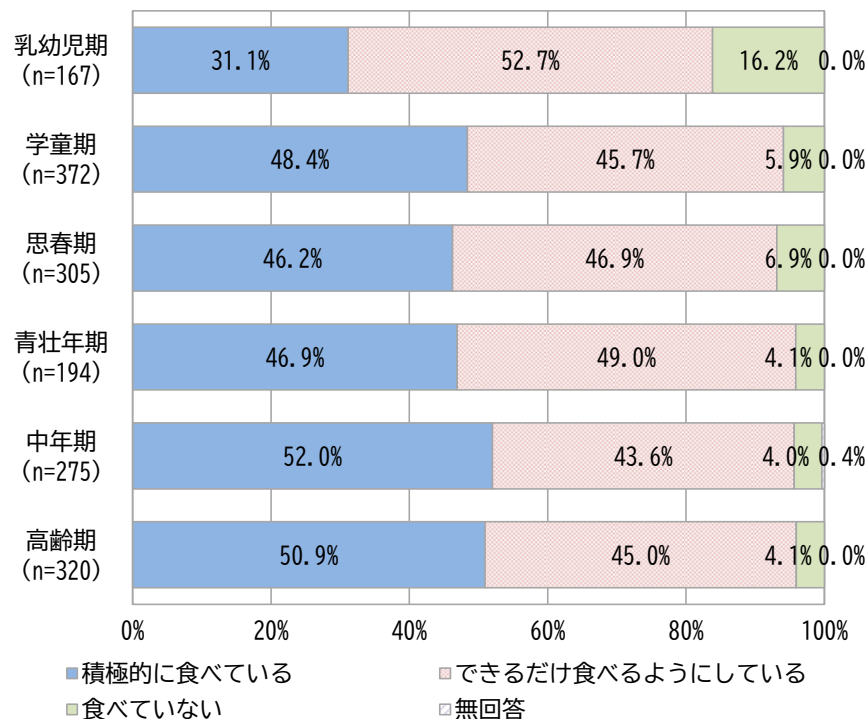
※乳幼児期・学童期・思春期のみ。

夕食と一緒に食べる人については、各世代とも「家族全員」という割合が高く、次いで「大人の誰かと」となっています。



## ■野菜を積極的に食べていますか。

野菜を積極的に食べるかについては、乳幼児期以外は、「積極的に食べている」と「できるだけ食べるようにしている」の合計が9割を超えています。



### (3) 食に関する関心について

#### ■「食育」の認知度・関心、食品の安全性の知識について

- 「食育」という言葉の認知度、関心の有無とも、子育て世代の中心となっている青壮年期で高くなっています。
- 食品の安全性についての基礎的な知識の有無については、各世代とも「ある」が60%を超えていますが、特に高齢期が高くなっています。

#### ■鹿嶋市の特産品や郷土料理について

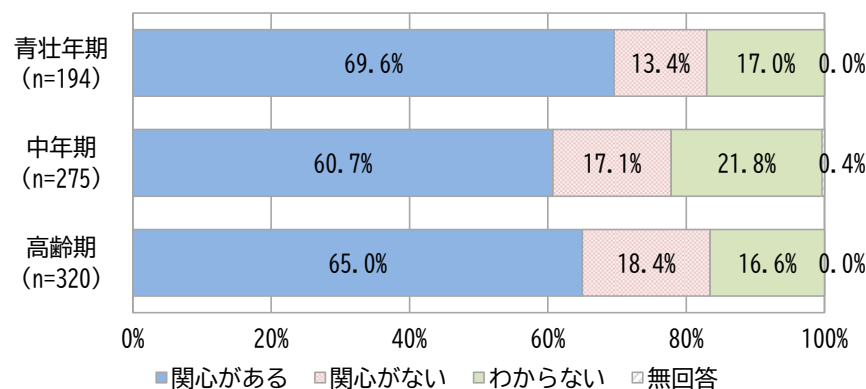
- 鹿嶋市の特産品の認知度については、各世代とも「知っていて、食べたことがある」という割合が高くなっています。また、鹿嶋市の郷土料理については、年齢が上がるにつれて「知っていて、食べたことがある」という割合が増加しますが、学童期や思春期では、「知っているが、食べたことはない」という割合が高くなっており、学校や家庭における教育の中で、名前や存在は知られていることが分かります。

#### ■地産地消について

- 地産地消という言葉については、青壮年期、中年期、高齢期とも概ね8割以上が「言葉も意味も知っている」と回答しており、地産地消が浸透していることが窺えます。一方で、食材を選ぶ際に、地元産を意識するかについては、高齢期で52.2%と半数を超えますが、青壮年期、中年期では半数以下となっており、地産地消を実際の行動につなげる取り組みが期待されます。

#### ■「食育」に関心がありますか。

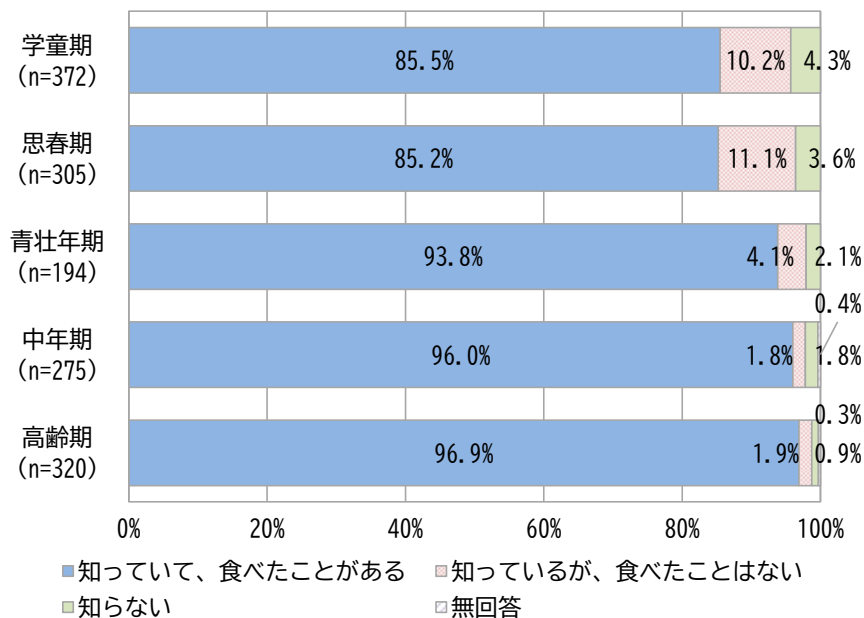
「食育」に対する関心の有無については、「関心がある」が各世代とも60%を超えており、青壮年期で高くなっています。



■鹿嶋の特産物を一つでも知っていますか。また、食べたことがありますか。

※乳幼児には設問なし

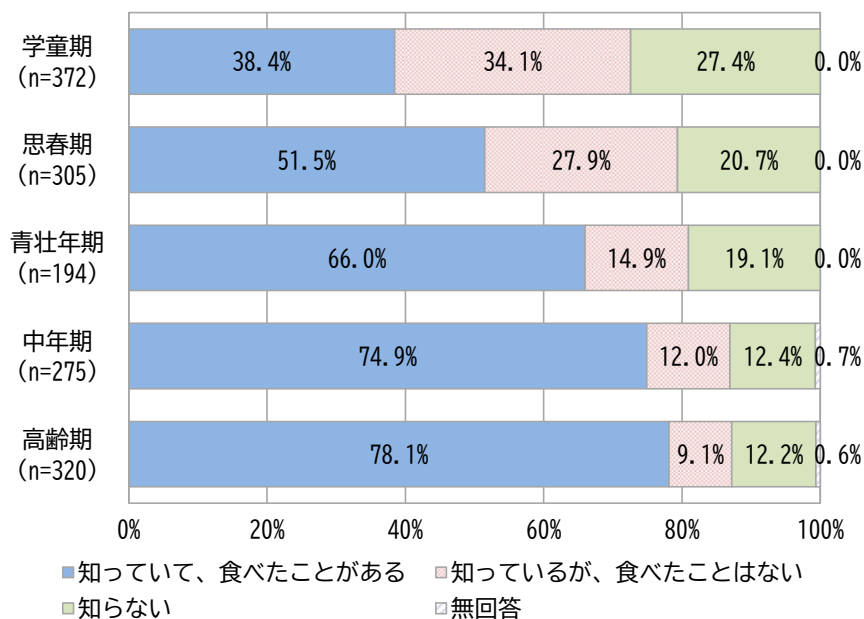
鹿嶋市の特産物の認知度については、各世代とも「知っていて、食べたことがある」という割合が高くなっていますが、学童期、思春期では「知っているが、食べたことはない」の割合が高くなっています。



■鹿嶋の郷土料理を一つでも知っていますか。また、食べたことがありますか。

※乳幼児には設問なし

鹿嶋市の郷土料理については、高齢になるほど「知っていて、食べたことがある」の割合が高くなっています。また、学童期や思春期は「知っているが、食べたことはない」という割合も高くなっています。



#### (4) 健康について

##### ■健康状態について

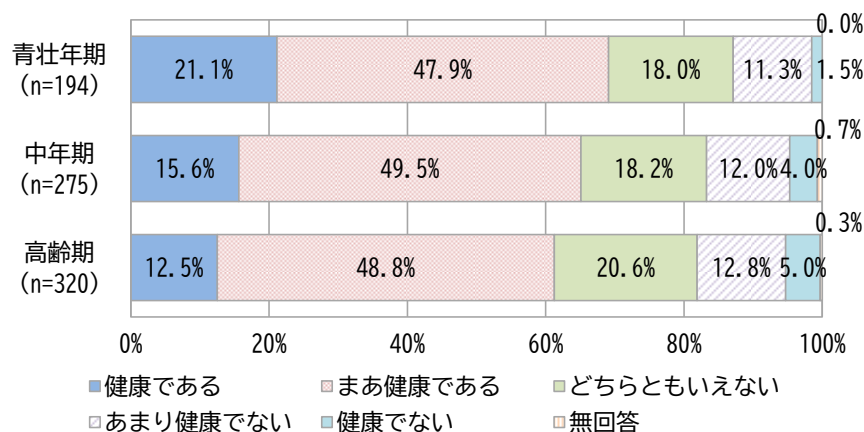
○自身の健康状態については、各世代とも「まあ健康である」の割合が高くなっていますが、中年期と高齢期になると、「健康である」が減少し「どちらともいえない」が増加しています。一方、健康への関心については、年齢が上がるにしたがって「大いにある」が増加しており、中年期以降の世代に対しては健康づくりの啓発、それより若い世代では、健康習慣の啓発が必要です。

##### ■メタボリックシンドロームについて

○メタボリックシンドロームについては、青壮年期、中年期、高齢期とも認知度が高く、若い世代ほど浸透しています。一方で、メタボ予防や改善のための適切な食事をしているかについては、青壮年期で最も低くなっており、適切な食習慣に対する啓発が必要です。

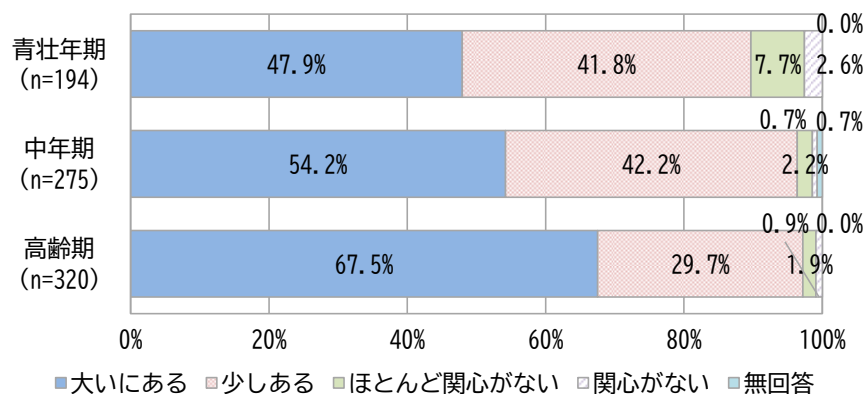
##### ■自分は健康だと思いますか。

自分は健康だと思うかについては、各世代とも「まあ健康である」の割合が高くなっていますが、次に多いのは青壮年期は「健康である」、中年期と高齢期は「どちらともいえない」となっています。



##### ■自分の健康に関心がありますか。

自分の健康に対する関心の有無については、各世代とも9割以上となっていますが、年齢が上がるほど「大いにある」が多くなっています。



## (5) 歯の健康について

### ■歯みがき習慣や食べ方について

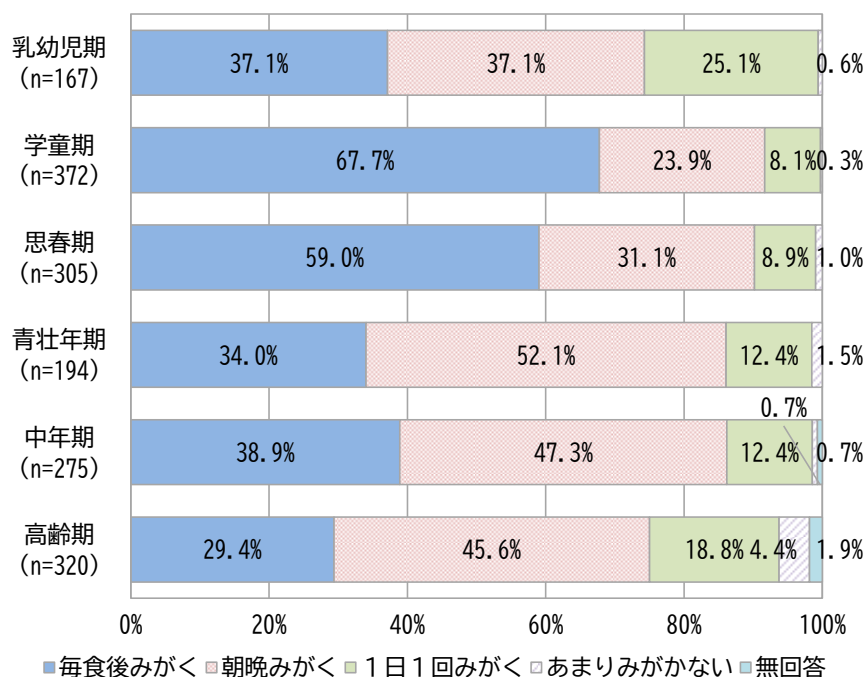
○歯みがきについては、学童期と思春期は「毎食後みがく」という割合が多くなっていますが、その他の世代は「朝晩みがく」の割合が高くなっており、青壮年期よりも上の世代に対する歯の健康づくりの啓発が必要と考えられます。一方で、よく噛んで食べるなど、食べ方についての関心については、青壮年期よりも上の世代で「ある」が高くなっています。

### ■歯科健診について

○歯科健診の定期的な受診については、高齢期になるほど「受けていない」の割合が高くなる傾向となっており、中年期以降を中心に定期的な健診の啓発が必要と考えられます。

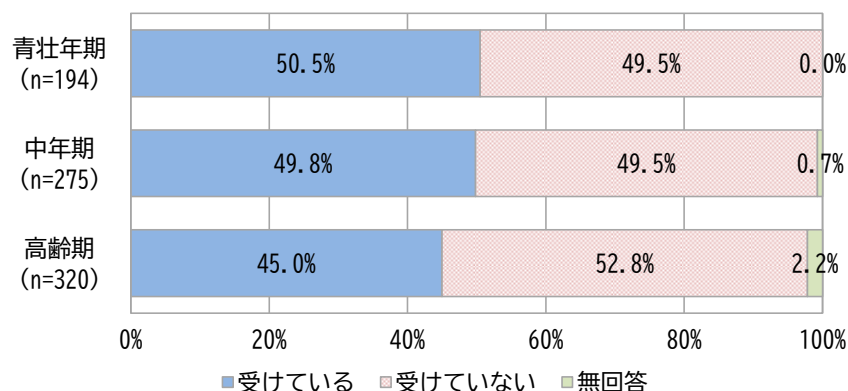
### ■歯みがきをしていますか。

歯みがきについては、学童期と思春期は「毎食後みがく」という割合が多く、その他の世代は「朝晩みがく」の割合が高くなっています。また乳幼児期は同数となっています。



### ■歯科健診を定期的に受けていますか。

歯科健診の定期的な受診については、「受けている」と「受けていない」が同じくらいになっていますが、高齢期になると「受けていない」の割合がやや高くなっています。





## (6) 運動習慣について

### ■健康づくりのための定期的な運動について

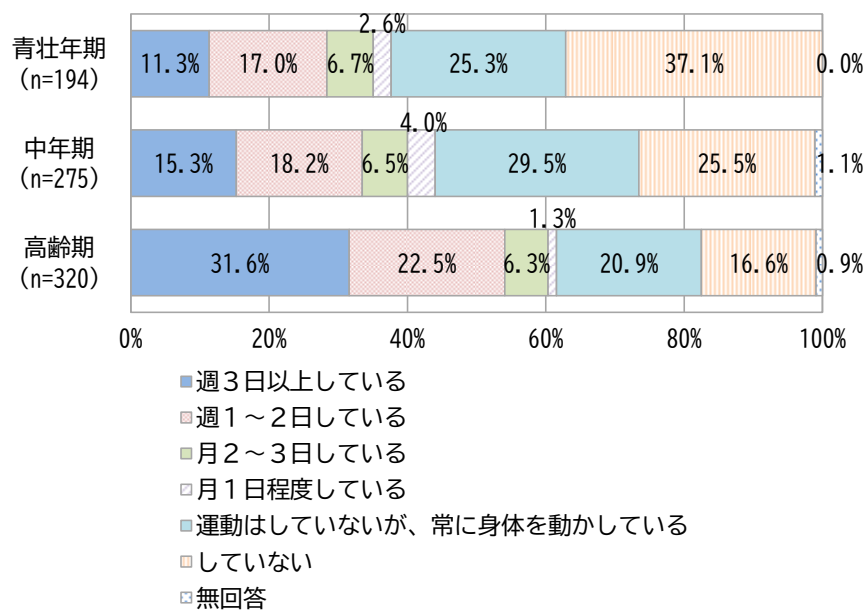
- 定期的な運動については、年齢が上がるほど「週3日以上している」の割合が高くなり、ウォーキングを中心に30～60分程度の定期的な運動が習慣化されていることが窺えますが、青壮年期では37.1%が「していない」と回答するなど、若い世代では運動習慣が身についていないことが窺えます。
- 若い世代で、運動ができない理由については、青壮年期や中年期で「時間がない」、「面倒くさい」という回答が多く、運動習慣についての啓発が必要です。
- 「ロコモティブシンドローム」という言葉については、「言葉も意味も知らない」の割合が高く、若い世代ほど認知されていない状況となっています。
- 乳幼児期、学童期では、体を動かす遊びや運動を「よくする」という割合が高くなっていますが、思春期は「時々する」が増加する傾向がみられ、青壮年期における運動の習慣化につながらない一つの要因になっていると考えられます。

### ■健康管理におけるICT（情報通信技術）の利用について

- ICT端末の利用については、「していない」が半数を超えています。各世代とも3割前後は利用しており、自身の健康に関心を持ち始める中年期で比較的高くなっています。

### ■健康づくりのために定期的な運動をしていますか。

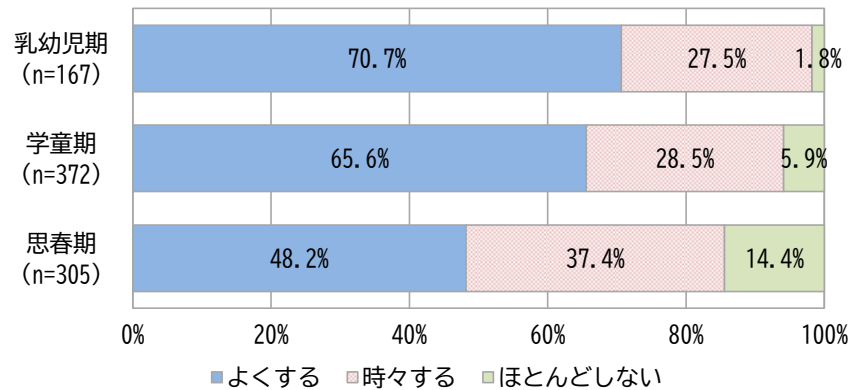
健康づくりのための適切な運動については、世代が上がるほど「週3日以上している」の割合が高くなっています。また、「運動はしていないが、常に身体を動かしている」の割合は中年期で高くなっています。一方、「していない」は青壮年期では37.1%と高くなっています。



## ■からだを動かす遊びや運動をしていますか。

※乳幼児期・学童期・思春期のみ。

体を動かす遊びや運動については、乳幼児期と学童期は「よくする」という割合が高くなっていますが、思春期は「時々する」も多くなっています。



## (7) 睡眠やストレスについて

### ■睡眠時間について

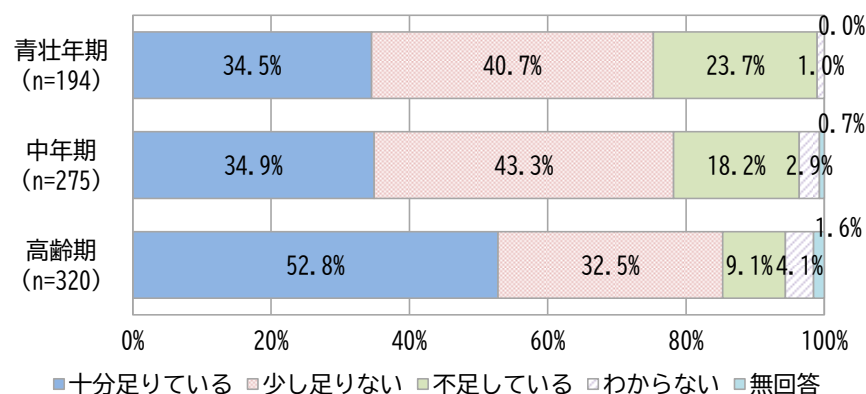
○睡眠時間については、各世代とも「6時間から8時間未満」の割合が最も高くなっていますが、青壮年期、中年期では、「睡眠が十分足りている」という割合が低くなっています。また、この世代では、ストレスや悩みを感じる割合も高く、睡眠とストレスの適切な管理が必要と考えられます。

### ■ストレスや悩みの相談について

○ストレスや悩みについては、年齢が若いほど「相談している」の割合が高く、青壮年期では「相談している」が54.7%となっています。中年期では「相談先がわからない」という回答も見られ、ストレスや悩みのケアに対する情報発信や啓発が必要と考えられます。

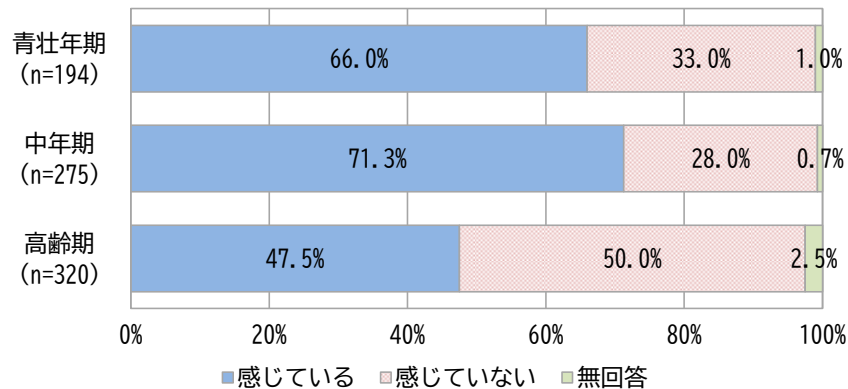
## ■普段の睡眠は十分に足りていると思いますか。

睡眠が足りているかについては、青壮年期・中年期は「少し足りない」の割合が最も高く、次いで「十分足りている」となっています。高齢期は「十分足りている」が52.8%となっています。



## ■ストレスや悩みを感じていますか。

ストレスや悩みの有無については、青壮年期・中年期は「感じている」の割合が高くなっていますが、高齢期では「感じている」より「感じていない」の割合が高く、「感じていない」が50%となっています。



## (8) 各種健（検）診の受診について

### ■健康診断の受診について

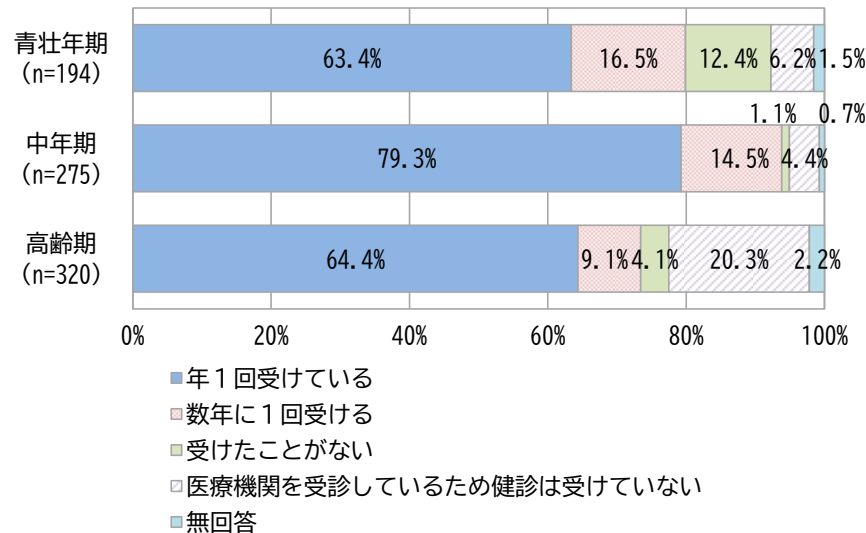
○健康診断（一般的な血液検査）の受診については、各世代とも「年1回受けている」の割合が最も高くなっていますが、青壮年期では「受けたことがない」の割合が高く、健康状態の把握のための受診を促進する必要があります。一方で、高齢期では、かかりつけ医を決めている割合が高いことから、「医療機関を受診しているため健診は受けていない」という割合が高くなり、健康診断とともに、かかりつけ医などを通じて健康状態を把握していることが窺えます。

### ■がん検診の受診について

- 胃がん、肺がん、大腸がんについては、青壮年期では「受診していない」が半数以上となっていますが、中年期、高齢期では回答者の半数が受診しており、高齢になるほど「市の検診」という割合が高くなります。
- また、子宮がんについては、青壮年期、中年期において半数以上が受診しています。また、乳がんについては、中年期で半数以上が受診しており、検診の重要性が浸透していることが考えられます。
- また、受診していない理由については、青壮年期、中年期では「忙しい」という理由が多くなっていますが、青壮年期では、「必要がない」、「費用が高い」という回答も多くなっています。

## ■健康診断を受けていますか。

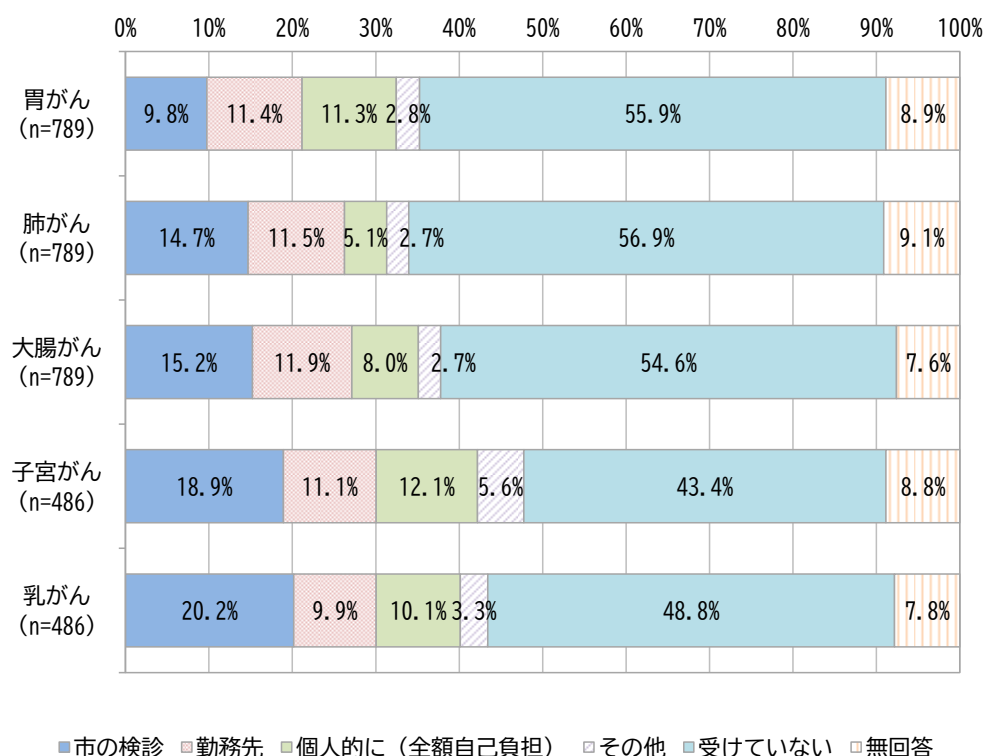
健康診断（一般的な血液検査）の受診については、各世代とも「年1回受けている」の割合が最も高くなっていますが、青壮年期では「受けたことがない」、高齢期では「医療機関を受診しているため健診は受けていない」という割合が高くなっています。



## ■過去2年間のうちに「がん検診」を受けましたか。それはどこで受けましたか。

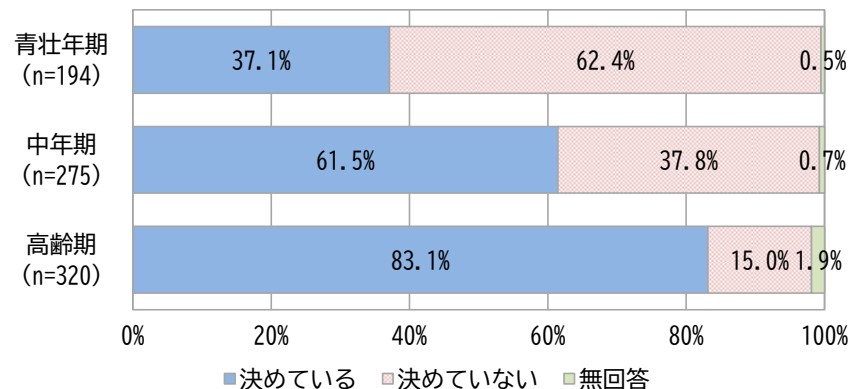
各がん検診とも「受けていない」と回答した割合が最も高く、特に胃がん・肺がん・大腸がん検診では約55%と半数以上を占めています。一方、「市の検診」の利用率は子宮がん18.9%、乳がん20.2%と比較的高く、女性特有のがん検診では市の検診が受診機会として活用されている状況が窺えます。

「勤務先」での受診は概ね1割前後ですが、子宮がん・乳がんではやや低く、勤務先での受診機会が十分でない可能性があります。また、個人的な受診は検診の種類により差が見られ、肺がん検診では特に低い傾向があります。



## ■かかりつけ医を決めていますか。

かかりつけ医については、青壮年期は「決めていない」が62.4%となっていますが、年齢が上がるに伴って「決めている」が増加し、高齢期では「決めている」が83.1%となっています。



## (9) 喫煙・飲酒習慣について

### ■喫煙習慣について

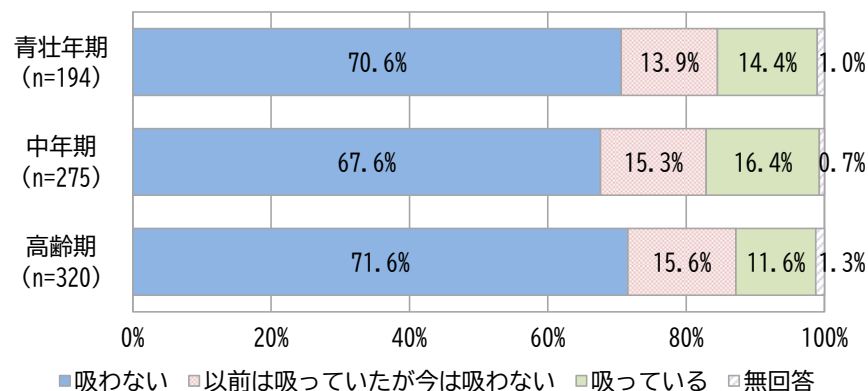
○喫煙については、各世代とも「吸わない」が約7割となっています。受動喫煙が気になる場所については、「飲食店」、「公共施設」、「娯楽施設（パチンコ・カラオケ等）」となっていますが、青壮年期、中年期では「職場」という回答も見られ、事業者に対する啓発も必要と考えられます。

### ■飲酒習慣について

○飲酒については、「飲まない」の割合が最も多くなっています。次いで青壮年期は「週2回以下（3合未満）」、中年期は「週3回以上（3合以上）」、高齢期は「週3回以上（3合未満）」となっており、若い世代ほど、飲酒の頻度が少なくなっています。

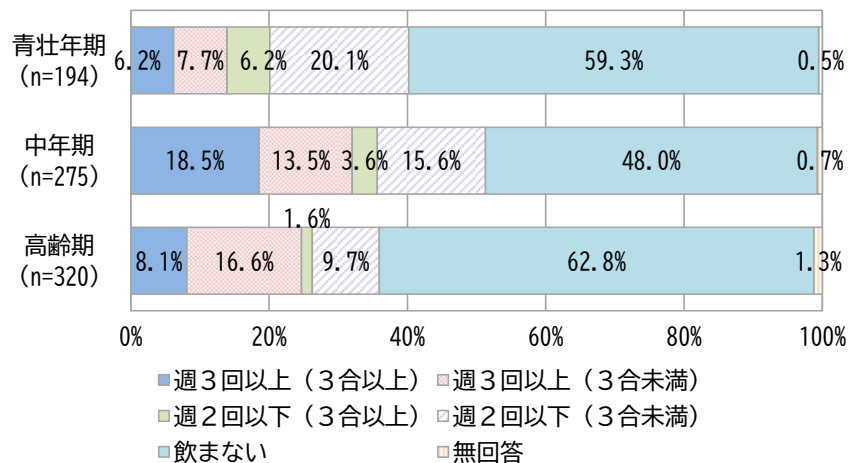
## ■たばこを吸いますか。

喫煙については、各世代とも「吸わない」が約7割となっています。



## ■お酒を飲みますか。

飲酒については、「飲まない」の割合が最も多くなっています。次いで青壮年期は「週2回以下（3合未満）」，中年期は「週3回以上（3合以上）」，高齢期は「週3回以上（3合未満）」となっています。



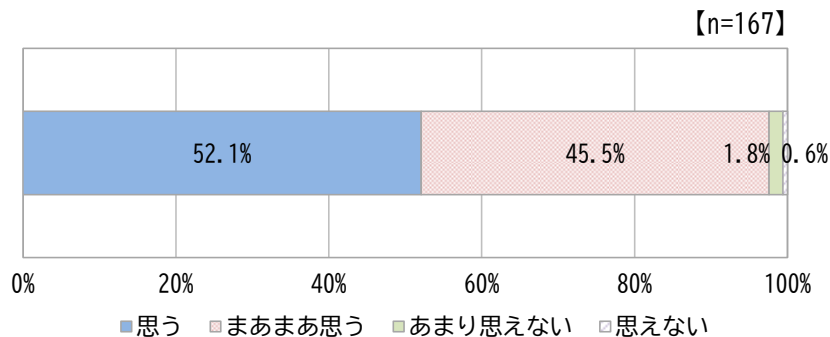
## (10) 母子の健康について

### ■子育てについて

○回答者の5割が楽しいと思うと回答し，まあまあ思うという回答を合わせると9割以上が子育てを楽しいと感じています。一方で，約7割が子育てに自信を持ってないことがあると回答し，約5割は子育てが困難だと感じる必要があると回答しており，子育てに寄り添った継続的な支援が必要と考えられます。

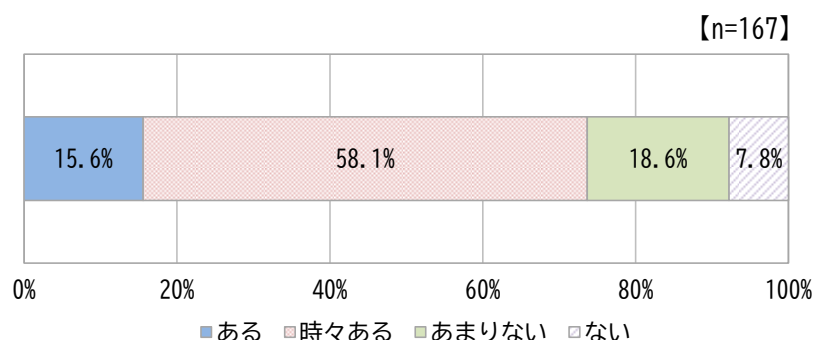
### ■子育てを楽しいと思いますか。

子育てを楽しいと思うかについては、「思う」が52.1%，「まあまあ思う」が45.5%となっています。



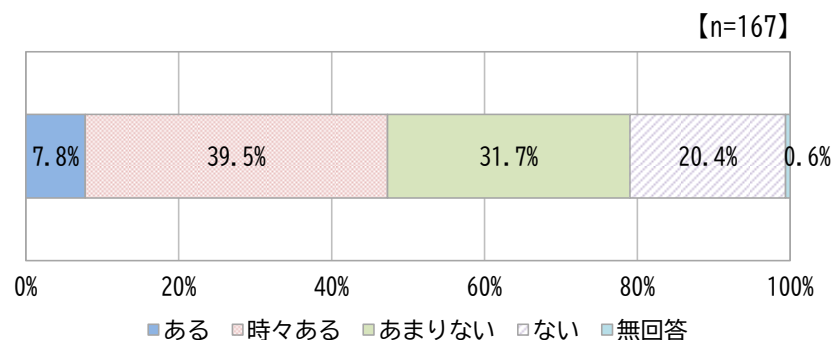
■子育てに自信が持てないことがありますか。

子育てに自信が持てないことの有無については、「ある」が15.6%、「時々ある」が58.1%で、約7割が自信が持てないことがあると回答しています。



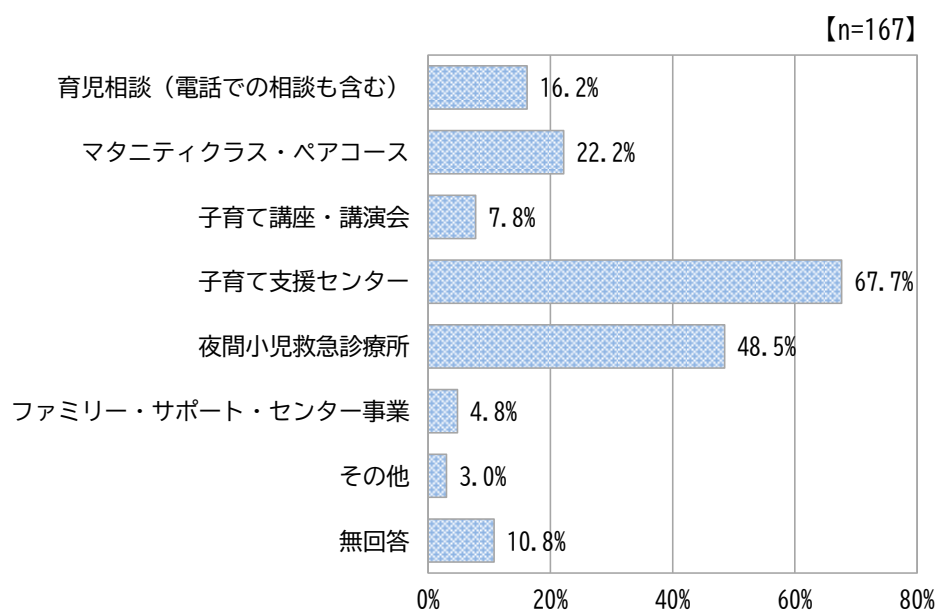
■子育てが困難だと感じることがありますか。

子育てが困難だと感じたことの有無については、「時々ある」が39.5%、「ある」が7.8%で、約半数が感じています。



■これまでにどのような市の子育て支援を利用したことがありますか。（複数回答可）

子育て支援の利用状況については、「子育て支援センター」が67.7%、「夜間小児救急診療所」が48.5%と多くなっています。



## 2-2 前計画の評価

第二次健康かしま 21 で定めた分野別目標の達成状況については、「A」が 29 項目 (30.5%), 「B」が 3 項目 (3.2%) であり、目標値が達成されたあるいは改善されたという目標は 5 割以下となっています。

一方で、「D」は 47 項目 (49.5%) であり、胃がん・肺がん・大腸がん検診の受診率, 成人男性の肥満 (BMI25 以上) の減少, 特定健康診査の実施率 (受診率) の向上, 特定保健指導の実施率 (終了率) の向上, 20~64 歳の運動習慣 (週 1 回以上, 30 分以上) の割合, 朝食の欠食率 (20 歳代男性), いつも朝食を食べている子どもの割合 (高校生相当 (17 歳)), 肥満状態にある 3 歳児の割合, 飲酒割合及び喫煙率, 介護保険認定率の増加の抑制などは「悪化している」という結果となっています。

図表 19－評価方法及び該当項目数 (割合)

評価区分	評価基準	該当項目数 (割合)
A：目標値に達した	進捗率 100%以上	29 項目 (30.5%)
B：順調に改善	進捗率 100%未満	3 項目 ( 3.2%)
C：やや改善	進捗率 50%未満	14 項目 (14.7%)
D：横ばい・悪化	進捗率 10%未満	47 項目 (49.5%)
E：評価困難		2 項目 ( 2.1%)
合計		95 項目 ( 100%)

※進捗率の計算方法

数値目標：(評価値－基準値) ÷ (目標値－基準値) × 100

なお、目標値について「減少」など、数値以外を目標として設定している指標については、達成状況により A または D 評価としています。



## 第二次健康かしま 21 の評価一覧

基本目標「健康寿命の延伸」「健康格差の縮小」

施策の柱（１）生活習慣病の発症予防と重症化予防の推進							
分野別目標項目			基準値 （R1）	評価値 （R6）	目標値 （R6）	達成状況※ （4段階）	出典
がん	（標準化死亡比）の減少	胃がん	男性 1.48	男性 1.24	減少	A	R6（2018～2022） 茨城県市町村別健康 指標
			女性 1.62	女性 1.18		A	
		肺がん	男性 0.95	男性 1.04		D	
			女性 1.15	女性 1.02		A	
		大腸がん	男性 1.54	男性 1.34		A	
			女性 0.95	女性 1.01		D	
		子宮頸がん	女性 1.73	女性 1.20		A	
		乳がん	女性 1.04	女性 1.02		A	
	各がん検診の受診率の向上	胃がん	38.5% (5.2%)	38.7% (5.5%)	50%以上	D	R6 健康づくりに 関するアンケート ※（ ）は R6 市町村の 市町村の住民健診に おけるがん検診の受 診率
		肺がん	41.7% (12.1%)	37.4% (16.0%)		D	
		大腸がん	44.7% (6.5%)	40.9% (11.7%)		D	
		子宮頸がん：女性のみ	41.0% (8.2%)	52.4% (12.6%)		A	
		乳がん：女性のみ	44.3% (5.8%)	47.1% (13.7%)		C	
循環器病	虚血性心疾患の死亡率（標準化死亡比）の減少		男性 2.01	男性 1.50	減少	A	R6（2018～2022） 茨城県市町村別健康 指標
			女性 1.64	女性 1.78		D	
	脳血管疾患の死亡率（標準化死亡比）の減少		男性 1.05	男性 0.96	減少	A	
			女性 1.11	女性 0.96		A	
	高血圧（140/90 mm Hg 以上の者の割合）の改善		23.8%	25.0%	12%以下	D	R6 特定健診結果
	脂質異常症の減少 （LDL コレステロール 160mg/dl 以上の割合の減少）		15.0%	13.5%	13%以下	B	
	メタボ該当者の減少		19.7%	20.9%	16.0% 以下	D	
	メタボ予備群		10.2%	11.7%	8.0% 以下	D	
	特定健康診査の実施率（受診率）の向上		39.9% （R2.9 月現在） ※H30 年 39.8%	36.0% （R7.10 月現在） ※R5 年 35.3%	60%以上	D	
特定保健指導の実施率（終了率）の向上		44.2% （R2.9 月現在） ※H30 年 35.6%	37.0% （R7.10 月現在） ※R5 年 38.1%	60%以上	D		
糖尿病	合併症（糖尿病性腎症による年間新規透析導入率）の減少（患者千人当たり）		1.133	0.967	減少	A	国連連合会 （令和 6 年データ）
	血糖コントロール指標におけるコントロール不良者の割合の減少（HbA1c NGSP 値 8.4%以上（JDS 値 8.0%）の割合）		1.3%	1.1%	1%以下	B	R6 特定健診結果
	糖尿病有病者の増加の抑制（HbA1c NGSP 値 6.5%以上（JDS 値 6.1%）の割合）		11.0%	11.7%	9%以下	D	

施策の柱（２） 健康に関する生活習慣改善の推進							
分野別目標項目			基準値 （R1）	評価値 （R6）	目標値 （R6）	達成状況※ （4段階）	出典
栄養・食生活・食育（食育推進計画）	①望ましい食生活を形成し実践しましょう	いつも朝食を食べている子どもの割合：幼児 「毎日食べている」と回答した割合	93.4%	92.2%	100%	D	R6 健康づくりに 関するアンケート
		いつも朝食を食べている子どもの割合：小学生 「毎日食べている」と回答した割合	90.5%	90.1%	100%	D	
		いつも朝食を食べている子どもの割合：中学生 「毎日食べている」と回答した割合	83.3%	80.7%	100%	D	
		いつも朝食を食べている子どもの割合：高校生相当（17歳） 「毎日食べている」と回答した割合	85.7%	73.8%	100%	D	
		朝食の欠食率：20歳代男性 「食べないことが多い」と回答した割合	12.5%	38.5%	15%以下	D	
		朝食の欠食率：20歳代女性 「食べないことが多い」と回答した割合	24.4%	27.6%	15%以下	D	
		家族とともに夕食を食べる子どもの割合：幼児 「家族全員」「大人の誰かと」と回答した割合	97.1%	94.6%	100%	D	
		家族とともに夕食を食べる子どもの割合：小学生 「家族全員」「大人の誰かと」と回答した割合	96.2%	89.3%	100%	D	
		家族とともに夕食を食べる子どもの割合：中学生 「家族全員」「大人の誰かと」と回答した割合	90.2%	88.6%	90%以上	D	
		食事のあいさつをする子どもの割合：幼児 「いつもする」と回答した割合	67.2%	71.9%	100%	C	
		食事のあいさつをする子どもの割合：小学生 「いつもする」と回答した割合	73.6%	79.8%	100%	C	
		食事のあいさつをする子どもの割合：中学生 「いつもする」と回答した割合	77.1%	78.7%	100%	D	
		食事のあいさつをする子どもの割合：高校生相当（17歳） 「いつもする」と回答した割合	70.0%	70.9%	80%以上	D	
		食事のあいさつをする人の割合：成人 「いつもする」と回答した割合	52.9%	58.0%	80%以上	C	
	②生活習慣病を予防する食生活を実践しましょう	主食・主菜・副菜がそろった食事をしている人の割合（成人及び4歳児保護者） 「している」「できるだけしている」と回答した割合	88.0%	88.3%	90%以上	C	R6 特定健診結果
		食事をよく噛んで食べる人の割合（成人及び4歳児保護者）	67.7%	83.7%	80%以上	A	
		夕食後に間食する人の割合	14.3%	24.2%	10%以下	D	
		肥満（BMI25以上）の減少（成人男性）	32.5%	35.6%	30%以下	D	
		肥満（BMI25以上）の減少（成人女性）	23.4%	23.9%	22%以下	D	R6 特定健診結果
		野菜を積極的に食べる人の割合 「積極的に食べている」と回答した割合	42.9%	47.2%	80%以上	C	R6 健康づくりに 関するアンケート
		野菜料理を1日に5皿以上食べる人の割合	—	—	40%以上	E	—
		うす味を心がけている人の割合	—	—	80%以上	E	—
	③食に対する関心や理解を 深めましょう	食育の言葉と意味を知っている人の割合	67.5%	77.1%	90%以上	C	R6 健康づくりに 関するアンケート
		食育に関心がある人の割合	64.6%	64.6%	90%以上	D	
		食生活改善推進員の増加	36人	34人	50人以上	D	R6 事業概要
		食品の安全性について関心がある人の割合 「食品の安全性について基礎的な知識がありますか」の問いに「ある」と回答した割合	64.6%	70.1%	80%以上	C	R6 健康づくりに 関するアンケート
		学校給食における地場産品を使用する割合	36.4%	58.1%	50%以上	A	R6 状況調査
		地産地消の言葉の意味を知っている人の割合 「言葉も意味も知っている」と回答した割合	77.6%	83.7%	80%以上	A	R6 健康づくりに 関するアンケート
		食材を選ぶ時に地元産を意識する人の割合 「意識している」と回答した割合	38.7%	43.9%	70%以上	C	R6 健康づくりに 関するアンケート

施策の柱（２）健康に関する生活習慣改善の推進							
分野別目標項目			基準値 （R1）	評価値 （R6）	目標値 （R6）	達成状況※ （4段階）	出典
		栽培・収穫体験をする場や機会がある子どもの割合（幼児）	66.0%	76.0%	90%以上	C	
		栽培・収穫体験をする場や機会がある子どもの割合（小学生）	52.5%	57.8%	70%以上	C	
		鹿嶋の郷土料理について知っている人の割合（成人及び4歳児保護者）	74.5%	74.0%	80%以上	D	
身体活動・運動	運動習慣（週1回以上、30分以上）の割合の増加〔20～64歳〕	男性 39.6%	男性 35.0%	36%以上	D		
		女性 21.3%	女性 16.7%	40%以上	D		
	運動習慣（週1回以上、30分以上）の割合の増加〔65歳以上〕	男性 45.7%	男性 43.9%	58%以上	D		
		女性 32.2%	女性 46.6%	55%以上	B		
休養	睡眠による休養を十分取れていない者の割合の減少 「普段の睡眠は十分に足りていますか」の問いに「不足している」と回答した割合		15.3%	15.8%	9%以下	D	
飲酒・喫煙	男性（純アルコール 40g 以上、日本酒換算 2 合以上）飲酒割合		11.1%	14.6%	10%以下	D	R6 特定健診質問項目別集計結果
	女性（純アルコール 20g 以上、日本酒換算 1 合以上）飲酒割合		3.8%	10.7%	3%以下	D	
	妊娠中の飲酒をなくす		2.3%	2.3%	なくす	D	乳児全戸訪問報告書
	成人の喫煙率の減少 「吸っている」と回答した割合		9.3%	13.9%	12%以下	D	R6 健康づくりに関するアンケート
	妊娠中の喫煙をなくす		2.7%	1.9%	なくす	D	乳児全戸訪問報告書
歯の健康	歯周病を有する者の割合の減少		23.6%	35.0%	20%以下	D	R6 歯周病検診結果
	過去1年間に歯科検診を受診した者の割合の増加 「歯科検診を定期的に受けていますか」の問いに「受けている」と回答した割合		43.8%	48.0%	65%以上	C	R6 健康づくりに関するアンケート
	う歯のある者の減少 幼児・学齢期の減少	1.6歳児う蝕有病率の減少	0.7%	1.1%	1%以下	C	R6 事業概要
		3歳児う蝕有病者率の減少	10.6%	8.6%	10%以下	A	
		小学生う蝕有病者率の減少	50.9%	39.4%	45%以下	A	R6 学校保健統計調査
		中学生う蝕有病者率の減少	34.2%	27.2%	40%以下	A	

施策の柱（３） ライフステージに応じた心身機能の維持・向上の推進							
分野別目標項目			基準値 （R1）	評価値 （R6）	目標値 （R6）	達成状況※ （4段階）	出典
次世代の健康く妊娠期から学童・思春期までく（母子保健計画）	①切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策の充実	1歳6か月児健診受診率	96.2%	97.9%	93%以上	A	R6 事業実績
		3歳2か月児健診受診率	94.2%	98.0%	93%以上	A	
		乳児全戸訪問事業実施率	97.5%	98.1%	99%以上	C	
		妊娠11週以下で届出した割合	94.0%	96.7%	95%以上	A	
		妊婦健康診査（第1回）受診率	96.1%	93.7%	95%以上	D	
		妊婦健康診査（第6回）受診率	83.5%	93.2%	93%以上	A	
		妊婦健康診査（第1回）の貧血検査で異常がある人の割合	5.4%	5.3%	6%以下	A	
		妊婦健康診査（第6回）の貧血検査で異常がある人の割合	35.4%	34.3%	35%以下	A	
		いつも朝食を食べている幼児の割合（再掲） 家族とともに夕食を食べる幼児の割合（平日）（再掲） 食事のあいさつをする幼児の割合（再掲）					R6 事業実績
		肥満状態にある3歳児の割合	2.3%	3.0%	2%以下	D	
		乳児全戸訪問事業実施率（再掲）					
		1歳6か月児・3歳2か月児健診う歯罹患率（再掲）					
		おやつ時間を決めている3歳児の割合	66.0%	60.9%	70%以上	D	R6 事業実績
	麻しん風しんⅠ期接種率	98.2%	93.9%	96%以上	D		
	麻しん風しんⅡ期接種率	94.4%	90.9%	92%以上	D		
	②学童・思春期からの健康づくり対策の充実	いつも朝食を食べている小学生・中学生の割合（再掲）					R6 学校保健統計調査
		肥満状態にある小学生の割合	11.3%	13.0%	10%以下	D	
		肥満状態にある中学生の割合	11.8%	13.1%	10%以下	D	
		小学生・中学生のむし歯罹患率（再掲）					
	③親子を孤立させない地域づくり	乳児全戸訪問事業実施率（再掲）					
	④育てにくさを感じる親に寄り添う支援の充実	子育ては楽しいと感じている父親の割合 「思う」「まあまあ思う」と回答した割合	100.0%	100.0%	100%	A	R6 健康づくりに 関するアンケート
		子育ては楽しいと感じている母親の割合 「思う」「まあまあ思う」と回答した割合	94.6%	97.4%	95%以上	A	
		子どもを虐待しているのではないかと感じる親がある保護者の割合「ある」「時々ある」と回答した割合	22.5%	18.6%	23%以下	A	
		子育てが困難だと感じている人の割合 「ある」「時々ある」と回答した割合	54.2%	47.3%	50%以下	A	
		育児について相談する相手や精神的な支えがいる人の割合	92.5%	97.0%	92%以上	A	

施策の柱（３） ライフステージに応じた心身機能の維持・向上の推進						
分野別目標項目		基準値 (R1)	評価値 (R6)	目標値 (R6)	達成状況※ (4段階)	出典
⑤ 虐待防止対策の実施	子育ては楽しいと感じている父親の割合（再掲） 子どもを虐待しているのではないかと考える保護者の割合（再掲） 子育てが困難だと感じている人の割合（再掲）					
青・壮年期の健康	生活習慣病対策（「生活習慣病の発症予防と重症化予防の推進」の項参照）					
	【こころの健康】ストレスや悩みを感じている時に相談している人の割合の増加	32.5%	42.4%	35%以上	A	R6 健康づくりに関するアンケート
高齢者の健康	介護保険認定率の増加の抑制	12.3%	14.9%	増加の抑制	D	R6 介護保険状況

## 2-3 ライフステージ別の特徴と課題

ライフステージ	課題
乳幼児期	<p>乳幼児期は、健康な身体とこころの基礎をつくる大切な時期です。</p> <p>この時期に身に着ける様々な習慣は、将来の健康な身体とこころの形成に不可欠な正しい食生活や生活習慣等に大きな影響を与えます。子どもの個性に寄り添いながら、親子でコミュニケーションを図り、発達段階に応じた、正しい食習慣や生活習慣を育むことが重要です。</p>
学童期	<p>学童期は、学校生活を通じて、知識の習得や思考力の発達、精神的な成長を遂げ、基本的な生活習慣が形成される時期です。</p> <p>家庭や学校での関わりを通して、正しい食習慣や生活習慣（歯みがき習慣を含む）等を確立し、身体とこころの健全な発育発達を促すことが重要です。</p>
思春期	<p>思春期は、身体やホルモンの急激な変化はもちろん、行動範囲や交友関係が広がり、社会的な成長がみられる一方、情緒の不安定さなど、成長に伴う様々な変化を迎える時期です。</p> <p>食生活や生活リズムが不規則になりやすい時期でもあるため、自分自身で正しい情報を選択し、自ら健康管理（セルフケア）ができる能力を身に着けるためにも自身の心身の変化を正しく知ることが重要です。また、不安や悩みを抱えることが多くなるため、相談しやすい環境づくりが必要です。</p>
青壮年期	<p>青壮年期は、就業や結婚、子育てなどライフスタイルが大きく変化するとともに、保護者の元での生活から自身で営む生活へと移行する時期です。多忙等により、食生活の乱れや不規則な生活習慣に陥る可能性が高く、ストレスを感じることも多くなります。</p> <p>この年代の生活は、今後の生活習慣病やメンタルヘルス関連疾患の発症に影響するだけでなく、自身のこども世代にも影響を及ぼします。望ましい食生活や生活習慣を改めて意識し、定期的に健康診断やがん検診を受診するなど、健康意識を高めていくことが必要です。</p>
中年期	<p>中年期は、生活習慣病の発症が増加するだけでなく、身体機能の緩やかな低下やホルモンバランスの変化を感じたり、仕事上の責任や子育てと介護の両立などに伴う精神的な負担が増えるなど、心身の変化が顕著に表れる一方で、この時期の健康行動が、老年期の健康状態を大きく左右する時期とも言えます。</p> <p>定期的な健康診査により自身の健康状態を把握するとともに、食生活や運動習慣をはじめとした生活習慣の改善や、口腔機能の維持など、自身や家族の健康づくりに積極的に取り組む必要があります。</p>
高齢期	<p>高齢期は、身体能力や健康において個人差が顕著に現れはじめる時期であり、社会的役割や交友関係の変化にも影響します。</p> <p>定期的な健康診査の受診や、必要に応じた継続的な治療により、自身の健康状態を確認しながら維持管理していくことが重要です。また、生活の中に体力や体調にみあった運動を取り入れ、筋力や日常生活動作を維持していくことと併せ、できる限り住み慣れた地域で心身ともに健やかで自立した生活が送れるよう、地域でのつながりや社会的役割を持つ機会が必要です。</p>